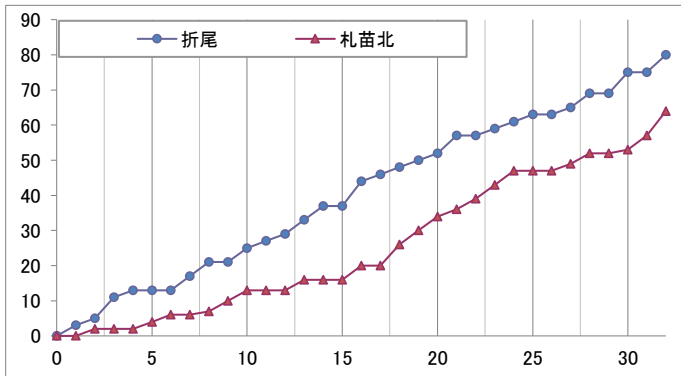




大会名	平成28年度全国中学校体育大会 第46回全国中学校バスケットボール大会																		
会場	勝山市体育館ジオアリーナ																		
日時	2016年8月24日(水) 10:00																		
コート	KAコート 第1試合																		
カテゴリー	女 決勝トーナメント1回戦																		
主審	九里 亜紀																		
副審	梅田 香																		
TEAM A	TEAM B																		
折尾 (福岡)	80 ○	<table border="1"> <tr><td>21</td><td>1st</td><td>7</td></tr> <tr><td>23</td><td>2nd</td><td>13</td></tr> <tr><td>17</td><td>3rd</td><td>27</td></tr> <tr><td>19</td><td>4th</td><td>17</td></tr> <tr><td>-</td><td></td><td></td></tr> </table>	21	1st	7	23	2nd	13	17	3rd	27	19	4th	17	-			64 ●	札苗北 (北海道)
21	1st	7																	
23	2nd	13																	
17	3rd	27																	
19	4th	17																	
-																			

得点経過



BOXスコア

TEAM A		折尾						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	F	
4	宮崎 叶	/	3	1	0	0	1	
5	木村 真唯 (CAP)	×	2	0	0	2	2	
6	島 濤七	/	2	0	1	0	0	
7	古閑 万優子	×	10	0	5	0	3	
8	宮原 明希	×	39	0	17	5	4	
9	佐藤 文美	/	2	0	1	0	2	
10	森上 夏希	/	2	0	1	0	0	
11	木寺 智美	/	0	0	0	0	0	
12	岡田 結衣	×	0	0	0	0	5	
13	竹元 琴音	/	0	0	0	0	0	
14	中山 千朗理	DNF	0	0	0	0	0	
15	山口 里奈	×	20	0	10	0	3	
16	堂脇 さち	DNF	0	0	0	0	0	
17	神森 祐里	DNF	0	0	0	0	0	
18	永原 実結	DNF	0	0	0	0	0	
コーチ	久保 進一							
合計			80	1	35	7	20	

TEAM B		札苗北						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	F	
4	柴山 瑠菜 (CAP)	×	20	3	4	3	0	
5	木幡 明里	×	5	0	2	1	1	
6	佐々木 百萌	×	14	2	3	2	1	
7	澤本 瑠衣	×	14	0	6	2	2	
8	藤元 葉月	/	2	0	1	0	0	
9	齋藤 莉乃	×	3	0	1	1	5	
10	山平 咲	/	6	0	1	4	2	
11	木村 優奈	DNF	0	0	0	0	0	
12	堺 美咲	DNF	0	0	0	0	0	
13	鈴木 さくら	DNF	0	0	0	0	0	
14	濱田 真琴	DNF	0	0	0	0	0	
15	梅田 侑南	DNF	0	0	0	0	0	
16	渡辺 寧々	DNF	0	0	0	0	0	
17	山谷 実優	DNF	0	0	0	0	0	
18	七戸 杏実	DNF	0	0	0	0	0	
コーチ	奥山 隆敏							
合計			64	5	18	13	11	

×…スターター /…出場 DNF…未出場 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル

戦評

九州ブロック代表折尾と北海道ブロック代表札苗北が対戦。折尾は2年ぶりの優勝をねらう。折尾はハーフコート、札苗北はオールコートdefからの立ち上がり。折尾は#8の巧みなポストプレーから得点を重ねた。ゴール下で囲まれてもプレーが乱れず、パスをさばくこともできた。札苗北はDefの当たりを強め#4#6のドライブを中心に得点する。しかし、折尾の一線のDefが堅く、苦しいシュートが続いた。折尾#15はミート直後またはドライブからのジャンプシュートが安定していて、1対1で力を発揮していた。#7#8のインサイドプレー、#5のパスワークなど内外のバランスのよいOffが印象的であった。札苗北は声を出し、コート内でもよくコミュニケーションをとっていた。前半を44-20折尾リードで終えた。

3Qは、一転して札苗北の流れになる。#4#6の3Pが決まり、#7がポストプレーから得点する場面があった。14点差まで詰め、3Qを終えた。4Q札苗北はフロントコートからダブルチームを仕掛け、チャンスを作ったが、フリースローの決めきれなかった。一方、折尾は選手交代があまりないが、集中力、持久力ともに高いレベルを維持していた。リバウンドやスティールの際のハンドワークが巧みで、ルーズボールに強さが見られた。札苗北は点差がついていたが、落ち着いたプレーをして積極的なドライブや#9のポストプレーで得点し粘りを見せた。最終的には80-64で折尾が勝ってベスト8進出を決めた。